彫刻の森美術館
News

コレクション展「彫刻–ムーアとロッソを中心に」

会期：2018 年 3 月 7 日（水）～ 10 月 28 日（日）　※予定
会場：本館ギャラリー　Main Gallery

本館ギャラリー 2F　展示風景

「彫刻は野外の芸術である」と語ったヘンリー・ムーア。彫刻の概念や表現の幅を広げたメダルド・ロッソ。
20 世紀彫刻の要となる二人の作家を中心に、アルマンやデュビュッフェ、イプステギなどの所蔵作品 25 点を紹介します。

展示作品リスト

ジャン・デュビュッフェ　《使者たち　タラビスコ（溝切りかんな）／クロシュポッシュ（片ポケット）／アンビュラン（巡回者）》
1975 年、エポキシ樹脂、ポリウレタン塗料
アルマン (アルマン・フェルナンデス) 《モーツァルトのポートレート》1991 年、ミクストメディア
ジャン = ロベール・イプステギ　《湯浴みする女》1966 年、ブロンズ
パウル・ヴンダーリッヒ　《大勝利》1976 年、ブロンズ
メダルド・ロッソ　《聖具係》1883 年、ワックス、石膏　《笑う女―大》1891 年、石膏　《病院の病める男》1889 年、ワックス、石膏
《ユダヤの少年》1892-93 年、ワックス、石膏　《門番の女》1883-84 頃年、ワックス、石膏
《門番の女》1883 年、ブロンズ《貧しい食事をする子供》1893 年、ブロンズ　《老人》1883 年、ブロンズ
《笑う女》1890 年、ブロンズ　《ガヴローシュ》1882-83 頃年、ブロンズ
ヘンリー・ムーア　《3 つの立っている像》1953 年、ブロンズ　《着衣の横たわる像》1957 年、ブロンズ
《大きくゆるやかなかたち》1962-68 年、ブロンズ　《直立 / 内なるかたちと外なるかたち：花》1951 年、ブロンズ
《彫刻：ポインツ (マケット)》1974 年、ブロンズ　《膝から上の女》1983 年、ブロンズ
《ピクチャーフレーム：母と子》1977 年、ブロンズ　《直立した接続するかたち》1979 年、ブロンズ
《直立した接続するかたち》1979 年、ブロンズ　《ふたつの球根のかたち》1983 年、ブロンズ
《ピクチャーフレーム：ローマの婦人》1977 年、ブロンズ　《ひざに子供を抱く母》1982 年、ブロンズ

※ジャン・デュビュッフェ《使者たち》、アルマン《モーツァルトのポートレート》の展示は、4 月 10 日（火）までとなります。

ヘンリー・ムーア　コレクション

「 …ひとたび野外に出て陽を浴び、雨に打たれ、雲の移りゆきを感ずるときには、彫刻も生活の一部であるということがよくわかる…　」
これは、当館の国際公募展「ヘンリー・ムーア大賞展」創設時（1979 年）にムーアから寄せられたメッセージです。このムーアの言葉は、そのまま当館の指針にもなってきました。

イギリスの彫刻家ヘンリー・ムーア（1898 ～ 1986）は、「彫刻は野外の芸術である」と語っています。自然の力で作られた形―小石や貝殻、流木、動物の骨、火打石（フリント・ストーン）を、ムーアは「見つけたオブジェ」とよび、尽きることない創作の源泉としました。ムーアの作品は、「母と子」「横たわる像」「内なるかたちと外なるかたち」の 3 つのテーマに分類することができます。その制作方法は、小石や骨などの自然のかたちからアイディアを得て最初に手のひらに乗る小さなマケット（雛型）を作り、風景の中に彫刻を置くことを想定しながら中間サイズの原型へと拡大しました。さらにいくつかの作品が選ばれて、２～５ｍの野外作品になっています。

《3 つの立っている像》
1953 年、ブロンズ

《ピクチャーフレーム：ローマの婦人》
1977 年、ブロンズ

《着衣の横たわる像》
1957 年、ブロンズ

メダルド・ロッソ　コレクション

19 世紀から 20 世紀への変わり目に、彫刻の新たな可能性を切り開いたイタリアの彫刻家メダルド・ロッソ（1858 ～ 1928）。その作品の多くは小型で、手法や素材から未完成にみえるほどです。市井に生きる人々の哀歓を素描のように写しとったロッソの作品は、観るものの視覚や記憶に迫り、強い印象を残します。

ロッソの関心は、対象を三次元として捉えるのではなく、光が彫刻に及ぼす効果をそのまま表現することで、現実的な主題から得た瞬間の印象を刻印することにありました。ロッソは、彫刻を見るべき視点を特定し、絵画の明暗法やぼかしの技法を応用するなど、彫刻の概念や表現の枠を広げました。

《貧しい食事をする子供》
1893 年、ブロンズ

《ユダヤの少年》
1892-93 年、ワックス、石膏

《門番の女》
1883 年頃、ブロンズ

プレス用　貸出画像　　・本館ギャラリー 2F　展示風景
・メダルド・ロッソ《貧しい食事をする子供》《ユダヤの少年》《門番の女》 計 4 点となります。

問い合わせ先　彫刻の森美術館　[担当：箱根運営部 / 福間　事業推進部 / 辻井]　Tel.0460-82-1161 Fax.0460-82-1169　mail.press@hakone-oam.or.jp